

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業ブロック協議会資料

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔秋田県教育委員会〕

1 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校（中学校）	湯沢市立湯沢南中学校	13（3）	315
連携校（拠点校中学校区内の小学校）	湯沢市立湯沢西小学校	21（3）	512
	湯沢市立三関小学校	7（1）	79

※ 学級数の（ ）には、特別支援学級数を内数として記入

※ 学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

2 意識調査（アンケート共通項目）

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	343	56.3	33.5	7.6	2.6	66.2	26.2	6.4	1.2	38.8	49.0	10.5	1.7	32.7	54.8	10.5	2.0
		前年②	342	47.7	42.7	7.9	1.8	60.2	33.0	5.3	1.5	29.2	58.2	10.5	2.0	22.8	55.8	19.6	1.8
		本年①	310	59.0	31.6	9.0	0.3	64.5	30.0	5.5	0.0	46.8	47.1	5.2	1.0	41.6	51.6	6.1	0.6
	3	中2①	110	53.6	32.7	12.7	0.9	60.9	31.8	7.3	0.0	33.6	55.5	10.0	0.9	30.0	60.9	8.2	0.9
		中2②	110	48.2	41.8	8.2	1.8	57.3	37.3	3.6	1.8	26.4	60.9	8.2	4.5	20.9	63.6	14.5	0.9
		中3①	109	47.7	39.4	12.8	0.0	57.8	34.9	7.3	0.0	43.1	47.7	8.3	0.9	30.3	60.6	9.2	0.0
	2	中1①	99	70.7	27.3	2.0	0.0	78.8	18.2	3.0	0.0	49.5	45.5	4.0	1.0	48.5	42.4	9.1	0.0
		中1②	98	46.9	42.9	10.2	0.0	64.3	28.6	6.1	1.0	27.6	61.2	11.2	0.0	25.5	54.1	19.4	1.0
		中2①	98	50.0	36.7	13.3	0.0	51.0	40.8	8.2	0.0	34.7	58.2	6.1	1.0	31.6	57.1	9.2	2.0
	1	小6①	100	75.0	19.0	6.0	0.0	83.0	17.0	0.0	0.0	52.0	43.0	5.0	0.0	62.0	36.0	2.0	0.0
		小6②	99	69.7	28.3	2.0	0.0	80.8	19.2	0.0	0.0	58.6	40.4	1.0	0.0	64.6	34.3	1.0	0.0
		中1①	103	79.6	18.4	1.0	1.0	84.5	14.6	1.0	0.0	62.1	35.9	1.0	1.0	63.1	36.9	0.0	0.0
小学校	高学年計	前年①	209	77.5	19.1	2.9	0.5	88.5	11.5	0.0	0.0	53.6	41.6	4.8	0.0	67.9	28.7	3.3	0.0
		前年②	209	70.8	27.3	1.9	0.0	82.8	16.3	1.0	0.0	55.5	40.7	3.8	0.0	65.1	31.1	2.4	1.4
		本年①	213	73.7	21.6	4.2	0.5	83.6	13.6	2.8	0.0	59.6	37.1	2.8	0.5	70.0	27.2	2.8	0.0
	6	小5①	109	79.8	19.8	0.0	0.9	93.6	6.4	0.0	0.0	55.0	40.4	4.6	0.0	73.4	22.0	4.6	0.0
		小5②	110	71.8	26.4	1.8	0.0	84.5	13.6	1.8	0.0	52.7	40.9	6.4	0.0	65.5	28.2	3.6	2.7
		小6①	109	72.5	24.8	2.8	0.0	79.8	17.4	2.8	0.0	58.7	36.7	3.7	0.9	68.8	27.5	3.7	0.0
	5	小5①	104	75.0	18.3	5.8	1.0	87.5	9.6	2.9	0.0	60.6	37.5	1.9	0.0	71.2	26.9	1.9	0.0
中学校	全学年計	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした	310	87.1	9.0	1.9	1.9	83.2	11.0	2.6	3.2	89.7	9.0	0.6	0.6	89.0	8.7	1.9	0.3
		イ 暴力ではないが、いじわるなされたり、イヤな思いをさせられた	109	85.3	9.2	3.7	1.8	73.4	16.5	5.5	4.6	84.4	14.7	0.0	0.9	81.7	13.8	3.7	0.9
		キ 叩いたり、けったり、強く押されたりした	98	79.6	15.3	2.0	3.1	83.7	10.2	2.0	4.1	86.7	11.2	1.0	1.0	88.8	10.2	1.0	0.0
		ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた	103	96.1	2.9	0.0	1.0	93.2	5.8	0.0	1.0	98.1	1.0	1.0	0.0	97.1	1.9	1.0	0.0
	小学校	高学年計	213	85.0	10.3	3.8	0.9	77.5	15.5	5.2	1.9	90.6	8.0	1.4	0.0	84.5	13.6	1.9	0.0
6年	109	83.5	11.0	4.6	0.9	81.7	11.9	5.5	0.9	89.9	8.3	1.8	0.0	86.2	11.0	2.8	0.0		
5年	104	86.5	9.6	2.9	1.0	73.1	19.2	4.8	2.9	91.3	7.7	1.0	0.0	82.7	16.3	1.0	0.0		

※小学校は連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施

※「オ」～「ク」の項目の調査は平成25年度から実施

3 課題・目標・取組

課題	自分に自信がもてないため、絆づくりができなかったり居場所を見付けたりすることができずに学習や人間関係の面で不安を抱えている。
目標	達成感のある学びや認め合いのある活動を通じ、自分のよさに気付き、自信をもち、互いに楽しく学校生活を営む児童生徒の育成。
取組	明確な見通しをもつ学習課題と確かな振り返りで達成感ある授業づくり、優しく話し温かく聞き考えを深め合う共感的集団づくり。

4 意識調査結果の分析

(1) 好ましいと思われる事項

小・中共通	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年計，中学校全学年計ともに，肯定的な回答が9割を超えている。ア「学校が楽しい」イ「みんなで何かをするのは楽しい」ウ「授業に主体的に取り組んでいる」エ「授業がよくわかる」の4項目において，小・中学校ともに，「当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答が常に90%以上となっている。特に，イ「みんなで何かをするのは楽しい」の数値が高い。 ・ウ「授業に主体的に取り組んでいる」の伸びが大きい。この項目においては，小学校，中学校ともに，昨年度の同時期よりも好ましい回答が増えている。「当てはまる」の回答が上昇傾向にある。 ・「いじめ」に関する意識の改善傾向が見られる。5月の調査後，独自に行った7月の意識調査で，特に「暴力はいけない」という意識の高まりが見られた。いじめの意識についても改善傾向が見られる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の同時期より，肯定的な回答の割合が高い数値にある。ア「学校が楽しい」イ「みんなで何かをするのは楽しい」ウ「授業に主体的に取り組んでいる」エ「授業がよくわかる」の4項目において，「当てはまる」の回答が上昇し，全体として高い数値を得た。特に，「ウ」「エ」においては，昨年12月の調査より，指数で0.2ポイント上昇している。 ・中1では4項目とも，小学校時の調査と同程度の高い数値を得ている。 ・中2においては，4項目とも，5月の調査では，昨年度と同程度の数値であった。独自に行った7月の調査では回復傾向にある。 ・中3においては，「ウ」「エ」において，回復傾向が見られる。 ・「いじめ」に関しては，5月から7月にかけて，「暴力」「嫌がらせ」の加害・被害ともに減少している。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・イ「みんなで何かをするのは楽しい」と回答する児童が非常に多く，指数で3.8ポイントを維持している。 ・ウ「授業に主体的に取り組んでいる」エ「授業がよくわかる」において，昨年度の同時期よりも高い数値を得ている。 ・小5においては，ア「学校が楽しい」と感じている児童が，5月から7月にかけて多くなってきている。 ・「いじめ」に関しては，小5の5月から7月にかけて，「暴力はいけない」という意識の高まりが見られてきた。

(2) 好ましくないと思われる事項

小・中共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ア「学校が楽しい」エ「授業がよくわかる」において，中学校では緩やかな上昇または回復傾向が見られるが，小学校で下降傾向にある。 ・「いじめ」に関して，「嫌がらせを受けたことがある」と回答した児童生徒は，5月から7月にかけて，あまり減少していない。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・5月から7月にかけて，エ「授業がよくわかる」の数値が，若干下降している。 ・中1においては，「ア」「イ」「エ」の数値が，5月から7月にかけて，下降している。また，「いじめ」に関しては，数値としては低いですが，「嫌がらせを受けたことがある」生徒が若干増えている。(5.8% → 10.6%) ・中2においては，「嫌がらせを受けたことがある」生徒が減少していない。(16.3% → 16.3%) ・中3においては，「ア」「イ」「ウ」「エ」の4項目いずれも，5月から7月にかけて下降傾向にある。また，「いじめ」に関しては，「嫌がらせを受けたことがある」生徒は減少してはいるが，割合としては依然高い。(26.6% → 21.1%)

小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・5月から7月にかけて、4項目とも、数値が下降傾向にある。 ・「いじめ」に関しては、5月から7月にかけて、「暴力」「嫌がらせ」とともに、数値の改善が見られなかった。特に、「嫌がらせを受けている」児童が増えている。 ・小5においては、5月から7月にかけて、エ「授業がよくわかる」の数値が大きく下降した。ウ「授業に主体的に取り組んでいる」も下降気味である。また、「いじめ」に関しては、「嫌がらせを受けたことがある」児童は減少しているが、数値としては依然高い。(26.9% → 17.5%) ・小6においては、5月から7月にかけて、4項目とも下降している。特に、ア「学校が楽しい」エ「授業がよくわかる」の下降が大きい。「いじめ」に関しては、「暴力を受けたことがある」児童はほぼ変わらない(16.5% → 16.7%)が、「嫌がらせを受けたことがある」児童は増加し、数値も高い。(18.3% → 26.9%)
-----	---

5 取組事項

小・中共通	<ol style="list-style-type: none"> ① 明確な見通しと確かな振り返りを基にした達成感のある学びを通じて、「学ぶこと」の意義や大切さの理解を深め、自力解決できる力を高める。 <ul style="list-style-type: none"> i) 「学び合い」の充実 ii) 「分かる授業」づくり ② 児童生徒が主体となった認め合いのある活動を通じて、自己有用感や自尊感情の醸成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> i) 「やさしく話そう、あたたかく聞こう」による人間関係づくり ii) 「ほめ合う」「認め合う」意図的場面づくり ③ 拠点校の教員が連携校の授業にTTなどで参加し、教科の専門性を生かした授業を行いながら児童の学習意欲を高め、中学校における学習への安心感を生み出す。 ④ 拠点校と連携校の児童生徒が相互に触れ合う機会を設定し、互いを知り合い、協働して成し遂げることの喜びや楽しさ、責任を果たす満足感などを実感させる。 ⑤ 小・中学校の教員が互いに授業を参観、協議し合い、相互に授業力を高め合う。 ⑥ 地域で育てたい児童生徒の姿や現在抱える課題などを基に作成した生活習慣表や学習習慣表を活用し、家庭と連携を図りながら9年間を見通した望ましい習慣を身に付けさせる。
中学校	<ol style="list-style-type: none"> ① 学年・学級経営や生徒会活動、学校行事、部活動等を通じて、PDCAサイクルを意識した生徒の自主的活動を促し、互いに認め合う集団の育成、所属感や連帯感による自己有用感の醸成を図る。 ② 講演会等を活用し、自己の生き方を見つめ、夢を育み、未来を切り拓いていこうとする意欲を高めながら、自己有用感の醸成を図る。
小学校	<ol style="list-style-type: none"> ① 異学年集団による活動を中心にしながら、一人一人が自己有用感をもてるような児童会活動を工夫する。 ② 小・小連携により、各小学校の6年児童が中学入学後に、互いにストレスを感じずにスムーズに中学校生活が送れるよう合同の制作活動や授業の場を設ける。

6 取組内容

(1) 事業実施計画書に記載した月別実施内容

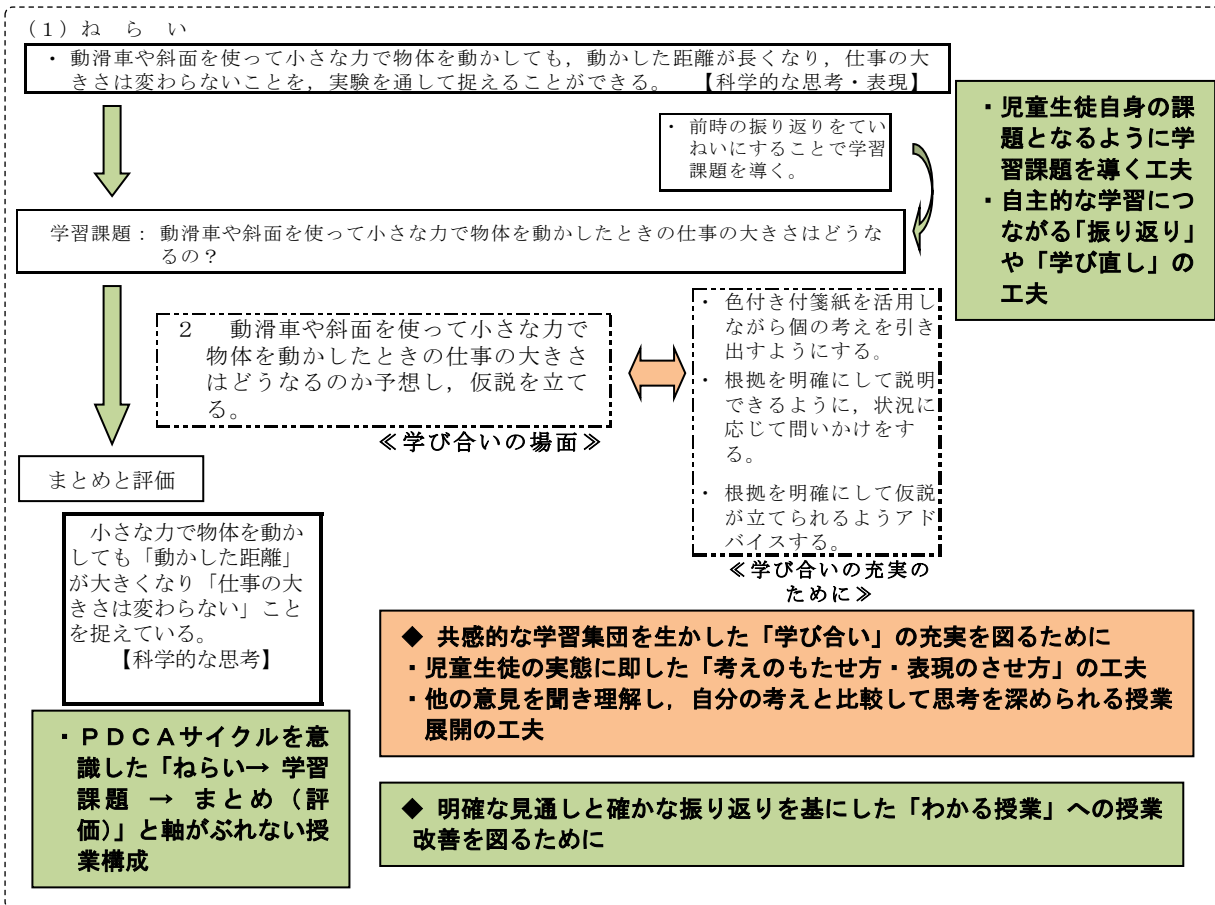
月	小学校で行う主な内容	実施状況	中学校で行う主な内容	実施状況
4月	第1回小・小連絡協議会	△	第1回運営委員会 第1回部門別代表者会議 第1回小・中連絡協議会 魅力集会(全学年) 第1回連絡協議会(東京) 第1回南ブロック研修会【小中合同】	○ ○ △ ○ ○ △
5月	魅力集会(全小・全学年) 縦割り班活動①(湯沢西小・全学年) 縦割り班活動①(三関小・全学年) 縦割り班活動②(三関小・全学年)	○ ○ ○ ○	南風タイム講演会①(全学年) 第1回学校生活意識調査【小中合同】 第2回運営委員会 南中体育祭(全学年)	○ ○ ○ ○

6月	合同制作活動事前打ち合わせ会 縦割り班活動③（三関小・全学年） 絵灯ろう制作活動（全小・6年）	○ ○ ○	国立教育政策研究所総括研究官訪問 第2回部門別代表者会議 第3回運営委員会 第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会	○ ○ ○ ○
7月	縦割り班活動②（湯沢西小・全学年） 第1回児童による授業評価（全小・高学年）	○ △	第1回県教委及び市教委訪問・授業研究会【小中合同】 拠点校教員の連携校授業への派遣【小中合同】 第2回学校生活意識調査【小中合同】 第1回生徒による授業評価（全学年） 第4回運営委員会 第1回学習・生活習慣実態調査【小中合同】	○ △ ○ ○ ○ ○
8月	第1回「魅力」校内研修（全小）	○	第5回運営委員会 第3回部門別代表者会議 第2回小・中連絡協議会 第1回「魅力」校内研修 南風タイム講演会②（全学年） 第2回「魅力」校内研修	○ ○ ○ ○ ○ ◇
9月	合同授業事前打ち合わせ会		第2回県教委及び市教委訪問・授業研究会【小中合同】 第6回運営委員会 第3回県教委及び市教委訪問，授業研究会【小中合同】 拠点校教員の連携校授業への派遣【小中合同】	
10月	縦割り班活動④（三関小・全学年） 縦割り班活動⑤（三関小・全学年） 第2回児童による授業評価（全小・高学年）		第7回運営委員会 南中合唱祭【小中合同】 南中祭（全学年） 第4回部門別代表者会議 ブロック別協議会（茨城）	
11月	合同授業（全小・6年） 第1回中1スタートダッシュアンケート（全小・6年） 第2回小・小連絡協議会		第8回運営委員会 湯沢市公開研究会【小中合同】 第3回小・中連絡協議会	
12月	縦割り班活動③（湯沢西小・全学年） 第2回「魅力」校内研修（全小）		第9回運営委員会 第5回部門別代表者会議 小学生体験入学【小中合同】 第3回学校生活意識調査【小中合同】 第2回生徒による授業評価（全学年） 保護者アンケート【小中合同】 第2回学習・生活習慣実態調査【小中合同】 第2回「魅力」校内研修	
1月	縦割り班活動⑥（三関小・全学年） 第2回中1スタートダッシュアンケート（全小・6年）		第10回運営委員会 リーフレットの完成および配布	
2月	縦割り班活動④（湯沢西小・全学年） 第3回小・小連絡協議会		第11回運営委員会 第6回部門別代表者会議 第2回連絡協議会（東京） 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会 第4回小・中連絡協議会 第3回生徒による授業評価（全学年） 秋田県教育研究発表会での研究発表 拠点校教員の連携校授業への派遣【小中合同】	
3月			紀要の作成と配布 第12回運営委員会	

(2) 8月末までに実施した具体的な取組

[小・中共通]

① 明確な見通しと確かな振り返りを基にした達成感のある学びを通じて、「学ぶこと」の意義や大切さの理解を深め、自力解決できる力を高める。



② 児童生徒が主体となった認め合いのある活動を通じて、自己有用感や自尊感情の醸成を図る。

・「やさしく話そう あたたかく聞こう」の合言葉を各教室に掲示し、取組の統一感をもたせ、児童生徒も教師も、その意識を高められるようにした。



[中学校]

① 学年・学級経営や生徒会活動、学校行事、部活動等を通じて、PDCAサイクルを意識した生徒の自主的活動を促し、互いに認め合う集団の育成、所属感や連帯感による自己有用感の醸成を図る。

《集会「みんなで考える魅力ある学校」》

「より魅力ある学校」にするために自分たちにできることは？

=生徒の考えを発表 =

- ・お互いが言動、言葉遣いに気をつける
 - ・勉強には全力で、遊ぶときは楽しく
 - ・大きな声で、相手が気持ちいいあいさつ
 - ・みんなで協力して、何でもやる
 - ・たくさんの人と関わる ・自分で一回は挑戦
 - ・大きな目標に向かって、小さな目標をクリアする
 - ・自分から積極的に行動する
- ◆ 身近な人間から声をかけるなど人間関係づくりをしていこう
by 生徒会長

《生徒指導の三機能を生かした異学年交流【体育祭】》

＝具体的実践事項＝

リーダーの選出	<ul style="list-style-type: none"> 各チームからトップリーダーを選出し、リーダー会議を開催して体育祭の必要事項について話し合いを行う。 各チームの各学年リーダーを中心に話し合い、練習を進める。 練習計画は、リーダーが決定していく。各担当教員は、アドバイスはするが、練習計画、選手選出等は生徒が行う。
認め合いの場	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションの時間を設定し、体育祭のねらいを共通理解したり、メンバーの自己紹介をしたりして、意欲を高める。 互いの頑張りを認め合う振り返りの時間を設定する。
種目決定	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒によるアンケートから生徒会執行部、体育委員会が種目の選定、決定を行う。 運動が得意な人、不得意な人、みんなが楽しめる種目を決めていく。 競技の方法、組み合わせの決定は、リーダー会議で行う。 個人種目を設定し、自分のやりたい種目、得意な種目を決めて、意欲をもって取り組めるようにする。
チーム対抗種目	<ul style="list-style-type: none"> 入場行進パフォーマンス、よさこいソーランダンスは各種目で表彰を行う。 色別全員リレーを行う。



【小学校】

- ① 異学年集団による活動を中心にしながら、一人一人が自己有用感をもてるような児童会活動を工夫する。
- 縦割り清掃などを通し、互いに認め合う姿が見られるようになり、それに伴って活動意欲が高まった。児童の意識の変容の様子は次のとおりである。

○下級生が上級生にたよる

「上級生に教えてもらい、世話される」(安心感)

◎下級生の思い…「楽しかった」「ありがとう」

「上級生が優しくしてくれて嬉しい」「私も上級生になったら下級生にしてあげたい」(感謝あこがれ)

○上級生は下級生にたよられる

「下級生の世話をする」「お手本を見せる」

「いいところを見せたい。がんばるぞ」(自立心)

◎上級生の思い…「大変だったけど下級生が喜んでくれて嬉しい」「役に立ててよかった」(自己有用感)



- ② 小・小連携により、各小学校の6年児童が中学入学後に、互いにストレスを感じずにスムーズに中学校生活を送れるよう合同の制作活動や授業の場を設ける。
- 昨年度、小・小連携事業として「絵灯ろう合同制作活動」「合同授業」を、小中連携事業として「スタートダッシュアンケート」を基にした「小学生体験入学」を実施した。年度初め、よい雰囲気の中で順調に中学校のスタートを切ることができた。中学入学前の人間関係づくりが効果的だったと考えられる。



[H25. 6. 絵灯ろう合同制作活動]

7 8月末までの取組状況と課題(第1回意識調査結果を踏まえた内容を含む)

(1) 順調に進んでいる事項

小・中共通	<p>① 明確な見通しと確かな振り返りを基にした達成感のある学びを通じて、「学ぶこと」の意義や大切さの理解を深め、自力解決できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を意識して授業に臨む姿、自分から「学び合い」に進んで取り組む姿が多く見られるようになってきた。 <p>② 児童生徒が主体となった認め合いのある活動を通じて、自己有用感や自尊感情の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やさしく話そう、あたたかく聞こう」のスローガンを掲示することで、取組の統一性が生まれ、自己有用感や自尊感情の醸成に効果が見られた。
-------	---

中学校	<p>① 学年・学級経営や生徒会活動，学校行事，部活動等を通じて，P D C Aサイクルを意識した生徒の自主的活動を促し，互いに認め合う集団の育成，所属感や連帯感による自己有用感の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や学級討議を通し，「魅力ある学校づくり」に対する生徒の意識を高めることができた。 ・生徒の主体性を生かした体育祭を契機に，3年生が主体的に活動するようになり，自信を深めることができた。
小学校	<p>① 異学年集団による活動を中心にしながら，一人一人が自己有用感をもてるような児童会活動を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃などを通し，認め合う姿が見られるようになり，それに伴って活動の意欲が高まった。 <p>② 小・小連携により，各小学校の6年児童が中学入学後に，互いにストレスを感じずにスムーズに中学校生活を送れるよう合同の制作活動や授業の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵灯ろう合同制作活動」「合同授業」等の小小連携事業，「スタートダッシュアンケート」を基にした「小学生体験入学」により，中学校生活への不安を軽減してさせることができた。

(2) 課題となっている事項

小・中共通	<p>① 明確な見通しと確かな振り返りを基にした達成感のある学びを通じて，「学ぶこと」の意義や大切さの理解を深め，自力解決できる力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの捉え方が教師によって様々であった。統一感をもって取り組めるように工夫する必要がある。 ・「学習課題」については，児童生徒の意欲を高めることはできたが，「授業がよくわかる」レベルまで到達しない授業も見られる。 <p>② 児童生徒が主体となった認め合いのある活動を通じて，自己有用感や自尊感情の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かす経営について，学年・学級への情報提供や働きかけを多くしていく必要がある。 <p>③ 拠点校の教員が連携校の授業にT Tなどで参加し，教科の専門性を生かした授業を行いながら児童の学習意欲を高め，中学校における学習への安心感を生み出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間の日程調整が難しく，教員派遣が計画通りにできなかった。 <p>⑤ 小・中学校の教員が互いに授業を参観，協議し合い，相互に授業力を高め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校は授業補充が難しいので参加者が限られてしまった。また，授業参観のみになるケースが多かった。
中学校	<p>① 学年・学級経営や生徒会活動，学校行事，部活動等を通じて，P D C Aサイクルを意識した生徒の自主的活動を促し，互いに認め合う集団の育成，所属感や連帯感による自己有用感の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班において，中2をサブリーダーとしてどのように育て，生かすのか検討が必要である。
小学校	<p>① 異学年集団による活動を中心にしながら，一人一人が自己有用感をもてるような児童会活動を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班において，小5をサブリーダーとしてどのように育て，生かすのか検討が必要である。 <p>② 小・小連携により，各小学校の6年児童が中学入学後に，互いにストレスを感じずにスムーズに中学校生活を送れるよう合同の制作活動や授業の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・小連携事業には日程調整等の難しさが伴う。成果は大きいので，来年度以降の継続の在り方について検討する必要がある。

8 9月以降の重点推進事項

小・中共通	<p>I 学年・学級の雰囲気づくりや安心できる居場所づくりを推進するため，①「やさしく話そう，あたたかく聞こう」の意識付けを図ること ②ほめ合いや認め合いの場面を意図的に設定すること。(いじめ対策にも共通)</p> <p>II 学習の不安解消に向けて，①「学習課題」が子ども自身のものになるような工夫をし「ねらい」がぶれない授業づくりをしていくこと ②「学び合い」に子どもたちが進んで取り組めるような工夫をしていくこと ③自主的学習に導くこと。</p>
中学校	<p>I 「南中『あいうえお』の徹底実践による落ち着いた生活・学習環境づくり」</p> <p>① 生活場面での「やさしく話そう あたたかく聞こう」の意識化</p> <p>② 誰もが活躍できる場，定期的な振り返り，称賛する場の設定</p>

	II 「わかる授業づくり」の一層の推進 ① 一貫性のある「ねらい・学習課題 [How to 型]・振り返り」 ② 学び合いの共通理解、考えを揺さぶる良質な発問の工夫 ③ 効果的な自主学习（テスト勉強，家庭学習，自学ノート）
小学校	I ① ほめる場の計画的な設定，工夫（湯沢西小） ② 教師による児童のよさを具体的に捉えた賞賛を通し，活動の成果を共有し合える学級集団づくりの推進（三関小） II ① 「学習課題」を「自分の課題」として意識させる工夫（湯沢西小） ② 全員発表をもとに，互いに認め合いながら，どの子も主体的に参加できる授業づくり（三関小）

9 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・一層の授業改善に向けた定期的な学校訪問による指導
- ・事業の深化と市内小中学校への成果の発信

〔成果と課題〕

- 県教育委員会と連携し，教科等の授業研究会を含む学校訪問を継続している。授業づくりに関する共通取組事項を全体で確認し，改善案を検討する場として有効である。
- 11月の公開研究会に向け，指定3校の意識が高まっている。授業づくり，児童生徒の人間関係づくりに関わる共通の取組が一層具体的になってきている。
- 公開研究会を加えたことによる学校，担当者の負担感は否めない。本事業の推進に大きな影響が出ないよう市教育委員会として負担軽減を図る必要がある。

(2) 南教育事務所

〔重点推進事項〕

- ・事業の趣旨に添った取組が行われるための学校訪問等を通して指導・助言
- ・指定地域（学校）の取組が他地区（学校）へ広報されるため指導・助言
- ・湯沢市教育委員会主催の公開研究会実施に向けた協力と指導・助言。

〔成果と課題〕

- 定期的な訪問により，事業の進捗状況に合わせた指導・助言を行うことができた。
- 事業推進及びそのための研修や協議を進めることにより，関係教職員の理解が図られ同一の歩調で研究が進められた。
- 重点推進事項に添った取組を進めることにより，児童生徒の変容が見られた。
- 公開研究会を実施することにより，市教育委員会及び各学校の取組に広がりが見られた。
- 公開研究会での企画・運営において十分な準備期間を設けることができなかった。県教育委員会としての協力体制を構築していきたい。

10 関連URL（※本事業に関連するものがあれば，ご紹介ください。）

湯沢南中学校HP <http://www.yutopia.or.jp/~minami/>

【問い合わせ先】

所属	秋田県教育庁義務教育課		電話	018-860-5148	
職名	指導主事	氏名	田口 武美	よみがな	たぐち たけみ